

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 つつじユニット)

事業所番号	0691200083		
法人名	株式会社奥山商店		
事業所名	グループホーム スマイルしばし		
所在地	山形県寒河江市大字柴橋1634番地の6		
自己評価作成日	令和 3年 2月 20日	開設年月日	平成29年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の近くには最上川があり、住宅地の中にありますがとても静かで四季折々の風景が楽しめる落ち着いた環境です。利用者様への思いやりの心をもって、ご家族、地域とのご縁を大切に一緒に生活をサポートさせていただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 3年 4月 21日	評価結果決定日	令和 3年 5月 10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、設立以来、地域の中で、数多くの交流を行って生活できるように努力して来たが、昨年からのコロナ禍の中で十分な対応ができないジレンマの中にある。このような状況下でも、地域交流室「えがお館」を地域に開放したり、事業所情報を地域に発信したり、繋がりが途切れないように尽力している。また、利用者が「その人らしく生活」できるように、一人ひとりの生活歴や意向・希望を漏れなく把握するよう努め、ケース記録に詳しく記載し、支援のあり方を話し合っている。より良い支援に繋げるためのひとつの方策として、家族に届ける担当者作成の「スマイルレター」(写真とメッセージ)を充実させることで、事業所・職員と家族との関係が緊密になるよう、信頼感が増すように尽力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を職員が目につくところへ掲示している。各ユニット毎の目標を職員間で共有、実践できるよう毎月のユニット会議を開催している	「・笑顔と幸せを」等の施設理念を職員が気の付くところに掲示するとともに、例えば「感染症対策」と「外出機会確保」など、毎月ユニット会議で定めるユニット毎の具体的なケア目標を意識しながら、利用者一人ひとりの、「その人らしい生活」が可能になるよう支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	敷地内に地域の方も自由に利用できる地域交流室「えがお館」を併設しており、近所の方の集まりにも使用できるよう情報発信している。	昨年度までは、買物、小学校や保育園との交流などを通じ地域との交流が広がりつつあった。現在はコロナ禍の影響で、付近の散歩などで顔を会わせたりする程度であるが、地域交流館「えがお館」の地域への開放などで、事業所の情報を発信しながら、地域との交流拡大を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所のスーパーへ職員と一緒にいく事により、認知症の方でも定期的に外出し、出来る事があるという事を発信している。※新型コロナにより、利用者の外出を随時中止、解除を行っていた			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナにより今年度は書面での通知、意見を参考にしながら運営に結び付けている	昨年度は、市職員、町内会長・地区代表二人と家族、職員とで2か月に1回開催されていたが、現在は、2か月に1回、書面で、事業所の運営状況、行事、ヒヤリハットなどを報告し意見を頂戴している。コロナ等についての質問は多いが、相互の意見交換が難しくなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者へ随時連絡をとりながら事業所の現状報告、生活保護受給者への市担当者からの訪問等の受け入れにより協力関係を築けるよう取り組んでいる。	市職員には、運営推進会議資料を持参し、説明している。また、申請事務に係る事務資料提出の際にも、事業所と利用者の現状を報告し、意見を交換している。協力関係は密にしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>施設内研修での身体拘束の勉強会を開催、また3ヶ月に一度身体拘束廃止委員会を実施している。転倒の危険性のある利用者については、センサーを利用し転倒防止に努めている。</p>	<p>ユニット会議などにおいて、身体拘束適正化指針を基に、勉強会を開催している。また、定期的に適正化委員会を開催しながら、センサー対応などについて検討を行い、その結果の課題などについて話し合っている。複数の無断外出者への対応についても、共通認識の基に、見守りと誘導で対応している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内研修での勉強会や資料配布等により虐待防止について学ぶ機会を得られるよう検討している</p>	/		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>施設内研修での勉強会や資料配布等により制度の理解を深められるよう検討している</p>	/		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約や解除の際には、納得していただけるよう十分に説明し、疑問点についてはその都度電話や面会時に説明を行っている。</p>	/		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃より利用者の声に耳を傾け、また随時家族への連絡により利用者の生活状況を説明している。毎月家族宛に利用者の生活状況をお便りとして定期的に郵送している。</p>	<p>「その人らしい生活の支援」を実現するため、日頃の会話から要望や希望を、漏れなく汲み取るように努めている。また、家族には、利用者の写真と担当者のメッセージが載っている「スマイルレター」を毎月家族に送付し、希望と意見、職員へアドバイスを頂いている。家族と利用者・事業所とは、ITを活用した面談が可能となっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員から意見を聞く機会を作っており、意見や提案は聞きやすい状態にある。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、役職手当、介護職員処遇改善手当などを対象となる職員へ支給している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に内外の研修への参加を勧めている。研修参加の際には費用負担の補助、勤務体制を整えている。	コロナ禍の中、外部研修の機会が減少したが、折々の機会でも内部研修を実施している。職員個人毎には、目標管理を設定し、管理者との面談機会、それに基づく次年度の目標設定を行っており、その機会において、研修意欲についても確認している。資格取得の促進を図り、支援もしている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム連絡協議会へ加盟し、地区ブロック連絡協議会への参加や研修等への参加を通じて他事業所との交流する機会を通じ、事業所のサービスの質を向上できるようにしている。リモートによる研修会に参加している	県グループホーム連絡協議会に加盟し、積極的に活動しているが、交流機会は減少している。リモートによる研修機会など活用し、人的なネットワークの維持を図り、サービス向上に活かしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人と話しあう機会を設け、生活の中で困っている事、不安な事、要望等を聞くようにしている。また入所後も随時本人の話しに耳を傾け、安心して生活できるよう職員間での情報共有を図っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接から入所まで不安な事や生活に対しての要望を聞くよう努め、関係作りに努めている。また入所後も面会や電話などで連絡を取り合うようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話しあいを行いながら、状況に応じて支援している。他サービス利用の説明や手続き等の説明を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の気持ちになって、職員自ら話題を提供しながら利用者と時間を一緒に共有できるよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナにより家族面会を中止、解除と随時対応している。タブレット、スマートフォンによるテレビ電話が出来る体制を整えている。毎月お便りを作成し近況報告を行っている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナにより面会や外出の機会は中止、解除と随時対応している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに一緒に生活しているという意識をもてるよう職員が人間関係の橋渡しができるよう支援に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても本人、家族へ必要に応じて情報提供を行えるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の話しを日常の中で良く聞きながら、意向や要望を把握出来るよう努めている。	利用者の生活歴や得意なことを踏まえるとともに、日頃の会話・表情から、思いや要望を汲み取っている。家族には、担当者からの写真付き「スマイルレター」を毎月送付し、信頼関係を築き、率直な意見発信を促している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接に多くの情報を収集できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の言動や行動、心身の状態をケース記録や申し送りノートを活用しながら把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護認定の見直し時期、心身の状態の変化時に本人、家族からの意見を反映しながらカンファレンスを行い介護計画を作成している。	3か月毎にモニタリングを行い、利用者特に変化がなければ、12か月毎に介護計画の見直しを行っている。検討会議では、利用者や家族の意向や、詳しく記載されたケース記録を踏まえて、現状に即した本人らしい生活支援のあり方を話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアの実践、結果をケース記録や申し送りノートへ記入、閲覧した職員は必ずサインをする事で職員間の情報共有を図っている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	金谷区との連携は管理者が行い地域資源を把握できるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所時に本人、家族と希望を確認しながら主治医を設定し適切な医療を受けられるよう支援している。事業所で通院に行く場合には、通院後家族への連絡を行っている。</p>	<p>基本的には、本人・家族の希望する医師を、家族の同行で支援している。多くの利用者は、往診可能な医師をかかりつけ医として指定している。通院の際は情報提供書を持参し、その診察結果は同行者から関係者に連絡し、情報の共有を図っている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>定期的に血圧、体温測定を行いながら異常があれば看護師へ報告、相談するよう努めている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には看護サマリーを作成し病院関係者への情報提供を行っている。退院時は事前に病院への面談により、家族、病院関係者と情報交換や相談に努めている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に、「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を説明し同意を得ている。</p>	<p>利用開始時に「指針」に基づいて、できること、できないことを詳しく説明するとともに、利用者に変化があった際は、随時、関係者間で連絡し、対応を検討している。「看取り」についても、既に経験があるし、医師の協力もある。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>外部講師へ依頼しAEDの講習会を行い実践力を身につけている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署にも協力していただきながら、夜間想定を含めた避難訓練を定期的の実施できるよう計画している。</p>	<p>毎年2回、夜間想定も含め、火災を想定した避難訓練を実施している。地震対応の想定はないが、停電に対応した自家発電装置は用意され、最低限の食糧と水の備蓄も行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを尊重しながら言葉かけや対応できるようにしている。	管理者は、「一人ひとりの生活」を支援することを大切にしているので、積極的な話しかけ、意向の聴き取り、特にその際の言葉遣いについて、十分に配慮して対応をするよう、お互いに注意し合うようにしている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主導とならないよう利用者の意思を大切にしながら言葉かけや働きかけを行っている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、利用者のその日の気分や要望に応じて臨機応変に対応できるよう支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感を大切にし、日々の天候を見ながら状況に応じた服装となるよう心がけている。洗顔や整髪、髭剃りなど清潔感が保てているよう支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理や盛り付け、後片付け等を行っている。食事形態や苦手な食べ物を把握し、一人一人の好みにあった食事を提供できるよう心がけている。誕生日では利用者の希望に応じて食事またはおやつを提供している。	三食とも、職員作成のメニューで、家庭的な手作りの食事を楽しんでいる。利用者は、職員と一緒に、調理、盛り付け、後片付けを行っている。誕生日には希望のメニューが出されたり、また、行事食、おやつ作りや出前などによって、変化のある食事の提供、食べる楽しみに配慮されている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表を活用しながら把握できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士により口腔ケア指導、情報共有により一人一人にあった口腔ケアを行えるよう支援している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら一人一人にあった排泄介助の時間を把握できるよう努めている。	利用者一人ひとりについて、詳しく排泄状況を記録し、それを踏まえて一人ひとりにあった声掛けや誘導をしている。日中は出来るだけオムツを使わないように、リハパンやパットなどについて本人に合ったものを検討し、排泄の自立に繋げている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維類などを食事に取り入れたり、毎日軽体操を行い便秘予防に努めている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前には血圧、体温を測定し入浴可能かどうか判断している。入浴時は職員と1対1での介助を心がけている。入浴しやすいようすべり止めマットや機械浴を設置し支援している。	利用者の体調や気分などを踏まえながら、週2回の入浴を支援できるように努力している。嫌いな利用者には、声掛けの工夫や、相性の良い職員の支援などを検討している。一般浴と機械浴が可能であり、安全性に配慮されている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時々状況に応じて休んでいただいている。夜間は就寝時間を決めず、一人一人にあわせて眠っていただいている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋、お薬手帳の管理を行いながら薬の目的や副作用について理解できるようにしている。受診、往診時には日々の状態を医師へ報告、相談している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で利用者と話しをする事で好きな事、楽しめるようなことを把握できるよう努めている。家事や塗り絵、畑仕事など役割をもち気分転換となるよう支援している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナにより外出は中止、解除と随時対応した	コロナ禍の中、付近の散歩、菜園の野菜植え・管理、花壇の水掛け、リビングルームの前の日光浴などで、出来るだけ外気に触れられるように支援している。先般は、花見ドライブを楽しんだが、まだまだ、従前のようににはできない実態にある。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理できる方については高額でなければ個人で所有していただいている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話したい時などは、電話番号を押してから受話器を交代するなどの支援を行っている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気となるよう、家具の配置や色をなるべく統一するよう工夫している。ユニット間の行き来が容易となるよう事務所の扉をオープンにしている。	明るく、ゆったりしている共用空間は、温度管理が徹底され、換気にも配慮されている。その壁面には、行事の楽しそうな写真や、利用者の作品が飾られ、利用者は、テーブル、椅子、ソファで、思い思いに好きなことをやり、寛いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>中の良い利用者同士で居室やリビングを行ったり来たりできるよう支援している。テーブルの配置を過ごしやすい空間となるよう工夫している。</p>			
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時に本人、家族と相談しながら使い慣れたもの(茶碗や湯飲み等)を持って来ていただくよう相談、依頼している。</p>	<p>居室は、本人・家族と相談して、利用者が慣れ親しんだものを持参していただいている。部屋の配置や、整理・清掃なども利用者が寛げるように配慮・工夫がなされている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はバリアフリーとなっており、利用者が移動しやすくなっている。利用者の状況に応じて目印や居室へ名前を貼りわかるように工夫している。</p>			